

モダリティの観点から見た分析的な形の‘I-게 되다’ —‘I-게 하다’との比較—

天理大学
高地朋成

1. はじめに

本稿は、現代朝鮮語における分析的な形(analytic forms)¹⁾の 1 つである‘I²⁾-게 되다’についてモダリティ(modality)³⁾の観点から‘I-게 하다’との比較を通じてその特徴を記述するものである。

이정택(1992), 최규수(2005), 전영철(2008), 김윤신(2018)等の見解にしたがえば、‘I-게 되다’は「(状態の)変化」または「被動(피동), すなわち, 受け身」を表す文法形式として扱われている。筆者の認識によれば、これまでに‘I-게 되다’がモダリティの観点から考察されたことは無かった。筆者は、拙稿である高地(2020)において Talmy(1988)および Ilić(2013)によって指摘された「使役とモダリティの関係⁴⁾」を援用しつつ、「使役」を表す‘I-게 하다’が特定の条件下で拘束的モダリティ(deontic modality)⁵⁾に相当する意味を表すことを明らかにした。

1) 菅野(2006: 172-174)によれば、分析的な形(analytic forms)とは、総合的な形(synthetic forms)と概念的対立を成す形態論的な単位であり、総合的な形が 1 つの単語内部の語形変化による文法的機能を持つのに対し、分析的な形は 2 つ以上の単語にまたがって一定の文法的機能を表す形式のことを言う。

2) 本稿において、‘I’, ‘II’, ‘III’は、それぞれ‘第 I 語基’, ‘第 II 語基’, ‘第 III 語基’であることを意味する。語基については菅野他(1991: 1009-1017)を参照した。

3) 本稿におけるモダリティという術語は、意味論範疇(semantic category)としての‘modality’に対する訳語である。

4) 英語における使役動詞(‘make’, ‘let’, ‘have’等)とモーダル助動詞(‘can’, ‘may’, ‘must’等)は、「to’の付かない不定詞補語を取る」という統辞的共通特徴、そして「力のダイナミクス(force-dynamics)と関連する」という意味的共通特徴を持つ。このような共通特徴に根拠を置いて Talmy(1988: 80-81)では使役動詞とモーダル助動詞を共に「より大きなモーダル体系(the greater modal system)」というカテゴリーに入れている。

5) 拘束的モダリティ(deontic modality)とは「事態または出来事の参与者を取り巻く社会的、倫理的、道徳的規範等の外的拘束力が、事態または出来事の実現を誘発させるための核心的な原因になること」を述べる。Palmer(2001: 9)によれば、「出来事の実現を誘発する要因が、出来事の参与者にとって外的(external)であるもの(例えば、許可(permissive), 義務

Talmy(1988)および Ilić(2013)では、「使役」とモダリティの関係については詳しく述べられているが、「被動」とモダリティの関係については言及が無い。しかしながら、「使役」の場合と同様に、「被動」の場合も1つの事態成立をめぐる主動子(agonist)⁶⁾と拮抗子(antagonist)⁷⁾の係わり合いが前提として要求されることは明らかである。このことから、「I-게 하다」と同様に、「I-게 되다」の用法の一部については力のダイナミックス(force-dynamics)⁸⁾の観点からの考察が可能であり、特定の条件下で拘束的モダリティをはじめとした参与者志向モダリティ(participant-oriented modality)⁹⁾に相当する意味が表され得るという仮説を立てることが出来る¹⁰⁾。本稿ではこのような仮説を検証するため、「I-게 되다」が「疑似被動¹¹⁾」を表す場合に焦点を当て、力のダイナミックスおよびモダリティの観点からの考察を通じて「I-게 하다」との比較を行い、「I-게 되다」が参与者志向モダリティに相当する意味を表し得る条件を明らかにしようと思う。

(obligative), 権限(commisive)等が拘束的モダリティに該当する」と言う。

- ⁶⁾ 中野他(2015: 308)によれば、主動子(agonist)とは「事態に参与する複数の存在物のうち、注意の焦点があたるものを指す。その存在物がもつ静止あるいは運動の傾向が実現するか否かに焦点があたる。」と定義される。
- ⁷⁾ 中野他(2015: 309)によれば、拮抗子(antagonist)とは「主動子に影響を与える存在物のこと。主動子のもつ傾向を拮抗子が押さえ込むか否かが問題となる。」と定義される。
- ⁸⁾ 長友(2014: 3)にしたがえば、力のダイナミックス(force-dynamics)とは「力の行使、行使された力への抵抗、力に対する障害物、障害物の除去が繰り成す関係である」と定義される。
- ⁹⁾ 高地(2018: 6-9)によれば、参与者志向モダリティ(participant-oriented modality)とは「事態(state of affairs)の参与者(participant)を取り巻く内的または外的な状況要因(conditioning factors)について言及するもの」である。すなわち、参与者内的モダリティ(participant-internal modality)と参与者外的モダリティ(participant-external modality)を括ったカテゴリーである。認識的モダリティ(epistemic modality)が命題(proposition)についての話し手(speaker)の主観的な態度を表すのに対し、参与者志向モダリティは事態の参与者と参与者による動作の実現(または未実現)について言及するという点で大きく異なる。
- ¹⁰⁾ 念のため断っておくが、本稿は「I-게 되다」を「モダリティを表すための専用の文法形式、すなわち、ムード形式」と見なす立場を取っていない。後述するが、「I-게 되다」は基本的に「(状態の)変化」を表し、特定の条件下で「疑似被動」を表すために機能する。「I-게 되다」が「疑似被動」を表す場合に、稀に参与者志向モダリティに相当する意味を表すことがあるが、本稿はこの極めて限定的な用法に焦点を当て、「使役」を表す「I-게 하다」との比較を試みようというものである。
- ¹¹⁾ 後述するが、本稿では被動詞によって表される意味を「被動」と見なし、「I-게 되다」によって表される「被動」に類似した意味のことを「疑似被動」と見なす立場を取る。

本稿では、次のような順序で議論を展開する。第1に、先行研究の見解を参考にしつつ例文を考察することで‘I-게 되다’の基本的特徴を記述する。第2に、力のダイナミックスの観点から‘I-게 되다’による「疑似被動」と‘I-게 하다’による「使役」を比較する。第3に、モダリティの観点から‘I-게 되다’と‘I-게 하다’を比較する。第4に、‘I-게 되다’による「疑似被動」がどのような条件下でモダリティ的に解釈され得るのか解明する。最後に、考察結果についてまとめた後、今後の課題について述べる。

本稿では大韓民国の国立国語院(국립국어원)で開発された『21世紀世宗計画(21세기 세종계획)』の結果物である現代朝鮮語のコーパス活用プログラムから収集した例文に根拠を置き、議論を進めることを原則とする。しかしながら、適切な例文が見つからなかった場合や作例の必要がある場合は、現代朝鮮語の母語話者の協力を得て作成した例文を提示する。なお、その場合は当該例文の末尾に<作例>と示すことにする。

2. ‘I-게 되다’の特徴

ここでは、先行研究による見解を参考にしつつ、‘I-게 되다’の統辞的特徴および意味的特徴を概観することで、第3章以降における考察のための土台を設けることにする。

2.1. 分析的な形としての‘I-게 되다’

김윤신(2018: 97)が指摘するように、‘I-게 되다’が含まれた文から‘I-게 되다’を取り除いても文としては成立可能であることから、‘I-게 되다’は文の実質的な意味を構成する要素でないことが分かる。すなわち、‘I-게 되다’は終結語尾に準ずる文末形式として特定の文法的機能を担っていると言える。

- (1) a. 철수가 내년에 고등학교에 가게 되었다. <김윤신(2018)>
 チヨルスが来年高等学校に行くことになった.
 b. 철수가 내년에 고등학교에 간다. <김윤신(2018)>
 チヨルスが来年高等学校に行く.

さらに김윤신(2018: 97-99)が指摘するように、‘I-게 되다’の‘I-게’と‘되다’の間には、特殊助詞を除き、副詞をはじめとした他の要素が挿入されない。したがっ

て, 例文(2a)は正文であるが, 例文(2b)は非文と見なされる. また, ‘I-게’によって導かれる副詞句は省略が可能であるが, ‘I-게 되다’の文(例えば(2a))において「本用言句 + ‘I-게」を省略することは不可能である. したがって, 例文(2c)~(2d)は正文であるが, 例文(2e)は非文として見なされる. 以上の統辞的特徴は, ‘I-게 되다’が1つのまとまりを持った単位, すなわち, 分析的な形であり, 構成要素間に有機的な結合関係が存在することを証明している.

- (2) a. 철수가 고등학교에 가게는 되었다. <김윤신(2018)>
 チョルスが高等学校に行くことにはなった.
 b. *철수가 고등학교에 가게 드디어 되었다¹²⁾. <김윤신(2018)>
 c. 석고가 딱딱하게 굳었다. <김윤신(2018)>
 石膏がカチカチに固まった.
 d. 석고가 굳었다. <김윤신(2018)>
 石膏が固まった.
 e. *철수가 되었다. <김윤신(2018)>

また, ‘I-게 되다’は, 不可能形式の‘I-지 못하다’との結合に関して動詞の‘되다’と異なる統辞的な様相を呈する. 以下の例文(3a)が示すように動詞の‘되다’には‘I-지 못하다’が後続することが出来る. しかしながら, ‘I-게 되다’の場合は, ‘I-지 못하다’の後続が不可能である¹³⁾. 例文(3b)のように, ‘I-게 되다’に‘I-지 못하다’が先行する場合は自然な文として成り立つが, 例文(3c)のように, ‘I-게 되다’に‘I-지 못하다’が後続する場合は非文と見なされる¹⁴⁾.

¹²⁾ 例文の始まりの部分に上付きのアスタリスク記号(*)が付してある場合は, 当該例文が非文であることを意味する.

¹³⁾ 動詞の語幹に‘I-게 되다’が後続したものに‘I-지 못하다’が後続する例文を『21 世紀世宗計画』のコーパスを通じて検索したところ, 僅か1例しか見つけられなかった. また, その例文における‘I-게 되다’と‘I-지 못하다’の連鎖は不自然なものであった. 参考までに, 以下に当該例文を示しておく.

例) *우리들의 혼한 악담 내지 욕설에 “빠도 못 추린다”는 말이 있다. 그것은 목숨이 없어지는 것은 물론이고, 시신마저 온전히 갖추게 되지 못할 것이라고 상대방을 저주하고 있다. 이때도 뼈가 인체의 마지막 근거란 것을 의미하고 있다.

<21 세기 세종계획 BRHO0388>

¹⁴⁾ 査読者から, ‘I-게 되다’と‘I-지 못하다’の連鎖の成立可能性をご指摘頂いた. しかしながら, 例えば, “나는 계속 여기에 있고 싶은데 사정이 생겨서 오래 있게 되지 못해.”という文は成立しない. 朝鮮語母語話者に確認を取ったところ, “나는 계속 여기에 있고 싶은데 사정이 생겨서 오래 있지 못하게 됐어. (僕はずっとここにいたいんだけど, 事情ができて長くはいられなくなった.)”という文であれば自然であると言う. ‘I-게 되다’に

- (3) a. 힘이라는 것은 공기가 없는 곳에서는 사용이 되지 못한다.

〈21세기 세종계획 2CC00114〉

力というものは空気が無いところでは使用が出来ない.

- b. 교수가 가르치는 것을 게을리하고 학생이 소정기간 이상 출석을 안 하면 학점도 인정받지 못하게 된다.

〈21세기 세종계획 BA92A012〉

教授が教えることを怠け, 学生が所定の期間以上出席をしなければ, 単位も認定を受けることが出来なくなる.

- c. *교수가 가르치는 것을 게을리하고 학생이 소정기간 이상 출석을 안 하면 학점도 인정받게 되지 못한다.

このような現象が示唆することは、動詞の‘되다’が本来有する統辞的特徴が、‘I-게 되다’という構成において消失しているということである。この現象は、Hopper and Traugott(2003: 106-107)によれば、脱範疇化(decategorialization)と呼ばれるものに該当する。また、Lehmann(2002: 12)によれば、談話における非屈折的な単語の連鎖がある特定の文法的機能を持つようになる場合、統辞的に有機的な形式になると言うが、このような変化の過程は統辞化(syntacticization)と呼ばれる。なお、統辞化の段階にある文法形式は外面的には 2 つ以上の単語によって構成されるため、分析的(analytic)な性格を有するとも述べられている。以上のことから、本稿では、‘I-게 되다’を‘I-게’と‘되다’の単なる結合とは見なせず、‘I-게 되다’全体としてひとまとまりに機能する分析的な形として捉える立場を取ることにする。

2.2. ‘I-게 되다’によって表される意味

전영철(2008: 91)および김윤신(2018: 99)では、‘I-게 되다’によって表される意味を「被動」とは見なせず、「状態の変化」と見なしている。また、김윤신(2017: 160-161)によれば、「被動文(피동문)」とは以下に述べる 2 つの条件を満たす必要があると言う。以下において、김윤신(2017)の見解を援用しつつ、これについて簡潔に説明する。

1 つ目の条件は、能動文と比較した場合、名詞に後続する格標示が変わる、す

‘I-지 못하다’が後続出来ないのは、‘I-게 되다’が「行為的」な内容を表すのではなく、「状态的」な内容を表すためであると考えられる。‘I-게 되다’が「状态的」な内容を表すことについては、脚注の 20)にて述べる。

なわち、「焦点の変化」が起こらなければならないというものである。これは、能動文における動詞が他動詞であり、被動文における動詞が自動詞であるという対応関係から見れば当然のことである。例えば、以下の例文(4a)と(4b)は、同一の事柄について言及しているが、前者は能動文であり、後者は被動文である。両例文にはそれぞれ名詞の‘경찰관(警察官)’および‘도둑(泥棒)’が含まれており、「逮捕」という事柄を表しているという共通点がある。しかしながら、例文(4a)において‘경찰관(警察官)’には主格助詞の‘-이’が後続しているが、例文(4b)では与格助詞の‘-에게’が後続している。一方、‘도둑(泥棒)’の場合、例文(4a)では対格助詞の‘-을’が後続し、(4b)では主格助詞の‘-이’が後続している。このように能動文とこれに対応する被動文を比較した場合、焦点の変化が生じるのが原則である。

- (4) a. 경찰관이 도둑을 잡았다. <김윤신(2017)>
警察官が泥棒を捕まえた.
 b. 도둑이 경찰관에게 잡혔다. <김윤신(2017)>
泥棒が警察官に捕まえられた.

2つ目の条件は、被動文の場合、当該の事柄の成立において「他の存在からの影響」が関与していなければならないというものである。例えば、上の例文(4b)では「逮捕」という事柄の成立において「警察官」という存在、すなわち、「泥棒」にとって外部の存在からの影響が関与していることが分かる。

‘I-게 되다’が用いられた場合でも以下の例文(5a)のように、事柄の成立において「他の存在からの影響」が明確である場合は、「被動文」として見なすことが出来ないこともない。しかしながら、例文(5b)のような場合は、「他の存在からの影響」が明確でないため、典型的な被動文の用法から逸脱していると言える。なお、仮に例文(5b)を被動文と見なした場合、これに対応する能動文は例文(5c)であるが、(5b)と(5c)においては名詞に後続する格標示に変化が無く、「焦点の変化」が生じていないことになる。したがって、やはり例文(5b)は典型的な被動文の定義から逸脱するものであり、‘I-게 되다’によって常に「被動」の意味が表されると見なすには無理がある。

- (5) a. 상사의 명령 때문에 나는 갑자기 미국에 가게 되었다. <作例>
上司の命令のせいで、私は突然アメリカに行くことになった.
 b. 그는 어려운 환경에서 공부를 하게 되었다. <김윤신(2017)>
彼は厳しい環境で勉強をすることになった.
 c. 그는 어려운 환경에서 공부를 했다. <김윤신(2017)>
彼は厳しい環境で勉強をした.

既に전영철(2008: 94)が指摘しているが, ‘I-게 되다’を「被動」を表す文法形式と見なしてしまうと, 以下の例文(6a)~(6b)のように, 被動詞(피동사)に‘I-게 되다’が後続している事例についての説明に困ってしまう. また, 이정택(1992: 156)で指摘されているように, 「被動詞 + ‘I-게 되다’」の構成では「被動」の意味が表されるが, 被動詞によって「被動」の意味が表されるのであり, ‘I-게 되다’によって「被動」の意味が表されるわけではない. 一方, ‘I-게 되다’を「状態の変化¹⁵⁾」を表す文法形式として見なした場合は, 例文(6a)~(6b)についても整合性の取れる説明が可能になる.

- (6) a. 이렇게 되어 유원건설은 울트라건설로 이름이 바뀌게 된다.

〈21 세기 세종계획 7BB03B22〉

このようになって, ユウォン建設はウルトラ建設へと名前が変わることになる.

- b. 이 소설은 훌륭한 ‘예술가 소설’로 읽히게 된다.

〈21 세기 세종계획 2BEXXX20〉

この小説は立派な「芸術家小説」として読まれるようになる.

上において概観した先行研究の見解から分かるように, ‘I-게 되다’は典型的な「被動」の文法形式であるとは見なし難く, 「変化」を表す文法形式として見なすべきであろう. ‘I-게 되다’が使用された文とこれに対応する能動文との比較において「焦点の変化」が確認されないという点は, この主張の決定的な根拠になると言える. あくまでも「被動」に相当する意味が特定の条件下において‘I-게 되다’によって表されるに過ぎないと見なすのが無難であろう. 本稿では, ‘I-게 되다’によって表される「被動」に類似した意味のことを「疑似被動」と呼ぶことにする. これは被動詞によって表される本来の「被動」と区別するためである.

‘I-게 되다’によって「疑似被動」の意味が表される条件とは概ね以下の(7a)~(7c)のとおりである. 本稿では以下の(7a)~(7c)の条件を全て満たす場合の‘I-게 되다’の用法のみを「疑似被動」に該当するものと見なす.

¹⁵⁾ 김서형(2014: 59)が指摘するように, ‘I-게 되다’によって表される「状態の変化」は主語によって表される人物の意思とは無関係であるのが特徴である. なお, 김정남(2009)では ‘I-게 되다’によって表される意味を「変化」と呼んでいる. 「状態の変化」としてしまうと, 形容詞の意味による「状態」を連想してしまうため「変化」と言い表すのが適切だというのが김정남(2009)の主張である. この見解にしたがい, 本稿でもこれ以降, ‘I-게 되다’によって表される本質的な意味を「変化」と呼ぶことにする.

- (7) a. 事柄の成立に「他の存在からの影響」が関与していること.
 b. 動詞に後続していること.
 c. 被動詞に後続していないこと.

本稿では, ‘I-게 되다’によって表される本質的な意味を「変化」とし, 上記の(7a)~(7c)で示した特定の条件下においてのみ付随的に「疑似被動」の意味が表されると見なす立場を取る. すなわち, ‘I-게 되다’の「疑似被動」の意味は, 「変化」の意味の上に成り立つ副次的なものなのである.

しかしながら, ‘I-게 되다’を「被動」を表す文法形式であると見なす立場を取る先行研究も存在する. 例えば, 최규수(2005)がこれに該当する. 최규수(2005: 106-107)では以下の例文(8a)~(8b)を提示しつつ, 「使役」を表す‘I-게 하다’が使用されている例文(8a)と‘I-게 되다’が使用されている例文(8b)の間で, 主語と目的語の交替現象が起きていることを根拠として, ‘I-게 되다’を‘I-게 하다’に対応する「被動」の文法形式として見なしている.

- (8) a. 철수가 영이를 책을 읽게 했다. <최규수(2005)>
 チョルスがヨンイに本を読ませた.
 b. 영이가 철수에 의하여 책을 읽게 되었다. <최규수(2005)>
 ヨンイがチョルスによって本を読むことになった.

確かに例文(8b)の場合は上の(7a)~(7c)の条件を満たしているため, ‘I-게 되다’によって「疑似被動」の意味が表されていると言える. しかしながら, 典型的な被動文とは上の(4b)のような自動詞文が一般的である¹⁶⁾という点, そして, ‘I-게 되다’が被動詞の語幹にも結合し得るという点を考慮すれば, やはり‘I-게 되다’を「被動」を表す専用の文法形式として見なすには統辞的特徴の面において無理がある. ‘I-게 되다’は, (7a)~(7c)に示した条件において「疑似被動」の意味を表すに過ぎないのである.

上の例文(8a)と例文(8b)の比較において注目すべきことは, 최규수(2005)が指摘した「主語と目的語の交替」であり, ‘I-게 하다’と‘I-게 되다’が, 拮抗子と主動子に対する焦点化において, 言うなれば「コインの表と裏」のような関係にあるという事実である. すなわち, ‘I-게 하다’が使われた文では拮抗子である‘철수(チョルス)’が主語として明示され, 一方の‘I-게 되다’が使われた文では主動子である‘영이(ヨンイ)’が主語として明示される. ‘I-게 하다’は拮抗子に焦点

¹⁶⁾ 但し, ‘(발을) 밟히다(踏まれる)’や‘(돈을) 뜯기다(まきあげられる)’等のように, 一部の被動詞は他動詞のように対格助詞の‘-을/-를’を取り得る.

を当てる文法形式であり、一方、‘I-게 되다’は主動子に焦点を当てる文法形式であると言える。‘I-게 하다’と‘I-게 되다’のこのような対応関係こそが、筆者が注目する現象であり、本稿における議論の中心に位置するものである。

2.3. 拮抗子と主動子の標示類型

〈表 1〉 ‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合の拮抗子と主動子の標示類型¹⁷⁾

拮抗子の標示	主動子の標示	番号
덕분에	-이/-가	①
	-은/-는	②
	-도	③
때문에	-이/-가	④
	-은/-는	⑤
	-마저도	⑥
	-만	⑦
-에 따라/-에 따라서	-이/-가	⑧
	-은/-는	⑨
	-도	⑩
-{으로/로} 인하여/-{으로/로} 인해/{으로/로} 인해서	-이/-가	⑪
	-은/-는	⑫
-에 의하여/-에 의해/-에 의해서	-이/-가	⑬
	-은/-는	⑭
	-도	⑮

¹⁷⁾ ‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」には用法上 3 つのタイプが存在する。1 つ目は、主動子にとって「否定的な変化」をもたらすもの(例文(10b, 10c, 10d, 12b)のように「被害」や「迷惑」を表すもの)、2 つ目は「肯定的な変化」をもたらすもの(例文(9a, 9b, 9c, 10a)のように「恩恵」を表すもの)、3 つ目は「中立的な変化(否定/肯定のどちらでもない変化)」をもたらすもの(例文(11a, 11b, 11c, 12a, 13a, 13b, 13c))である。査読者から‘덕분에’のように「恩恵」の意味を表すものを拮抗子の標示と見なすことについて疑問をご提示頂いた。ここで辻他(2019: 156)による説明を引用しつつ主動子と拮抗子についての補足的な説明を加えるとすれば、主動子は「本来的に活動あるいは静止の傾向を持つ存在」であり、拮抗子は「主動子に力を加える存在」である。すなわち、拮抗子からの何らかの影響(または刺激)が与えられなければ、主動子は本来の活動を継続したり、あるいは本来の静止の状態を維持したりするということである。主動子に何らかの力を作用させることで、主動子に変化を与えるのが拮抗子であると見た場合、必ずしも主動子にとって否定的な変化を誘発させるもののみが拮抗子に該当するのではなく、肯定的な変化および中立的な変化を誘発させるものも拮抗子に該当すると見なす立場を本稿は取ることにする。

ここでは‘I-게 되다’によって「疑似被動」の意味が表される場合に焦点を当て、拮抗子と主動子がどのように標示されるのか、すなわち、どのような格助詞、特殊助詞、後置詞またはその他が名詞(または名詞句)に後続することによって拮抗子と主動子が標示されるのかについて概観する¹⁸⁾。今回の調査を通じて、‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合の拮抗子と主動子の標示類型として計 15 種類の組み合わせを取り出すことが出来た。その内訳は、上の<表 1>が示すとおりである¹⁹⁾。<表 1>における各標示類型に該当する例文を以下に示す。各例文において拮抗子が標示されている部分には波線を付け、主動子が標示されている部分には二重線を付けている。

【<表 1>の①～③に該当する例文】

- (9) a. 아주머니 덕분에 저희들이 새로운 삶을 살 수 있게 되었습니다. <21 세기 세종계획 BRAA0164>
 おばさんのおかげで、私達が新しい人生を生きることが出来るようになりました。
- b. 그 친구의 도움 덕분에 이런 불안감은 곧 사라지게 되었다. <21 세기 세종계획 2BNXXX09>
 その友人の手助けのおかげで、このような不安感はすぐ消えていった。
- c. 과장님의 소개 덕분에 그분도 오늘부터 5 억의 상속재산을 갖게 되었습니다. <21 세기 세종계획 BRHO0390>
 課長の紹介のおかげで、その方も今日から 5 億の相続財産を持つことになりました。

【<表 1>の④～⑦に該当する例文】

- (10) a. 이러한 노력 때문에 아랍인들이 그를 믿게 되었구요. <21 세기 세종계획 BRGO0347>
 このような努力によってアラブ人達が彼を信じるようになったのです。
- b. 그런데 미국 사람들은 우라늄의 꿈 때문에 자연을 즐길 수

¹⁸⁾ なお、‘I-게 되다’によって「疑似被動」の意味が表される場合に拮抗子と主動子の標示がどのように実現されるのかを論じた先行研究は見当たらなかった。

¹⁹⁾ <表 1>で示した調査結果は、あくまでも今回収集した例文に基づいたものであるため、提示した標示類型以外のものも存在すると考えられる。

없게 되었다고 하지만 우리나라에선 각종 범죄 때문에 봄을 즐길 수 없다. <21 세기 세종계획 BRGO0345>

ところで、アメリカ人達はウラニウムの夢のせいで自然を楽しむことが出来なくなったと言うが、我が国では各種の犯罪のせいで春を楽しむことが出来ない。

- c. 임마, 너 때문에 우리만 야단을 맞게 되었는데도 그냥 둘 줄 알았어? <21 세기 세종계획 BRGO0359>

この野郎、お前のせいで俺たちだけ怒られることになったのに、何もしないとも思っていたのか？

- d. 정부가 개입한 ‘선의의 사업’마저도 비효율과 비능률 때문에 도마 위에 올라가게 되었다. <21 세기 세종계획 CH000011>
政府が介入した「善意の事業」さえも非効率と非能率のせいで槍玉に挙げられることになった。

【<表 1>의 ⑧~⑩에該当する例文】

- (11) a. 사회의 변화에 따라 농민들이 각자 자기의 농사를 독자적으로 짓게 되면서 두레풍습은 사라져 갔다.

<21 세기 세종계획 BRHO0100>

社会の變化にしたがって、農民達が各自自分の農業を独自のに営むようになるにつれて、共同農作業の風習は消えて行った。

- b. 세금·이자·의료 및 사회보장비 지출이 개인의 가처분 소득에서 차지하는 비중이 1970 년 25%에서 1990 년 34%로 늘어남에 따라 이들 평균적 중산층 가구들은 실질구매력 감소에 직면하게 되었다. <21 세기 세종계획 BRHO0405>

税金・利子・医療および社会保障費の支出が個人の可処分所得において閉める比重が 1970 年の 25%から 1990 年の 34%に増加するにしたがって、これらの平均的中産層の世帯は実質購買力の減少に直面することになった。

- c. 언어의 변천에 따라 이 책도 교정을 면치 못하게 되었다.

<21 세기 세종계획 3BH50012>

言語の變遷にしたがって、この本も校正を免れることが出来なくなった。

【<表 1>의 ⑪~⑫에該当する例文】

- (12) a. 품질의 고급스러움과 사용의 간편함으로 인해 소비량이 점차 늘어나게 되었다. <21 세기 세종계획 BRHO0100>

品質の高級さと使用の簡便さのため, 消費量が次第に増えるようになった.

- b. BMW는 이로 인해 두 가지 문제를 안게 되었다.

〈21세기 세종계획 BRHO0405〉

BMWはこれのせいで2つの問題を抱えることになった.

【〈表1〉の⑬～⑮に該当する例文】

- (13) a. 이 실험에 의해 유전의 참모습이 처음으로 빛을 보게 되었다.

〈21세기 세종계획 BRHO0117〉

この実験によって, 遺伝の真の姿が初めて世に知られることになった.

- b. 덴마크의 라스크(R. K. Rask)에 의하여 그 가설은 증명의 단계에 들어가게 된다.

〈21세기 세종계획 BRHO0108〉

デンマークのラスク(R. K. Rask)によって, その仮説は証明の段階に入っていくことになる.

- c. 투표에서의 비밀성 확보 문제도 복수 후보제 채택에 의해서 자동적으로 해결을 보게 되었다.

〈21세기 세종계획 2BH9828〉

投票での秘密性確保の問題も, 複数候補制の採択によって, 自動的に解決を見ることになった.

上の例文(9)～(13)を通じて分かるように, 拮抗子の標示には名詞の‘덕분(おかげ)’または‘때문(せい, ため)’に格助詞の‘-에’が結合したものの, そして, ‘-에 따라/-에 따라서’, ‘-{으로/로} 인하여/-{으로/로} 인해/-{으로/로} 인해서’, ‘-에 의하여/-에 의해/-에 의해서’といった後置詞が使用されている. いずれも「原因」や「切っ掛け」を表すために機能するという共通した特徴を持っている.

一方, 主動子の標示には格助詞の‘-이/-가’や特殊助詞の‘-은/-는’, ‘-도’, ‘-마저’, ‘-만’等が使用されている. いずれも文における主語を表すために機能していることから, ‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合, 主動子が主語として現れることが分かる. この点は典型的な被動文と共通している.

2.4. 他の文法形式との結合関係

ここでは‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合の特性を把握するため, ‘I-게 되다’と他の文法形式との結合について考察した結果を示す.

まずは, ‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合の終止形語尾との結合関係を以

下に示す。なお、終止形語尾の類型については、菅野他(1991: 1023-1025)の見解にしたがい、直説法、推量法、目撃法、意志法、命令法、勧誘法の6種類とする。

〈表2〉‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合の終止形語尾との結合関係

類型	直説法	推量法	目撃法	意志法	命令法	勧誘法
結合の可否	○	○	○	×	×	×

- (14) a. 조선 후기가 되면 농업생산력 발전과 대외 무역의 성장 때문에 잉여물이 점점 증가하게 됩니다.

〈21세기 세종계획 2CJ00035〉

朝鮮後期になると、農業生産力の発展と対外貿易の成長のせいで、余剰物が段々と増加するようになります。

- b. 저렇게 공부를 싫어하는 애들이 선생님 지도로 인해 공부를 하게 될까요?

〈作例〉

あんなに勉強が嫌いな子供達が、先生の指導によって、勉強をするようになるのでしょうか？

- c. 동생의 웃긴 표정 때문에 나는 본의 아니게 웃게 되더라.

〈作例〉

弟の可笑しな表情のせいで、私は心ならずも笑うことになったよ。

- d. *원래 예정됐던 발표자의 결석으로 인해 제가 설명을 하게 될 게요.

- e. *명령에 따라 당신은 잔업을 하게 되십시오.

- f. *잡자기 생긴 휴가 때문에 너는 여행을 가게 되자.

上の〈表2〉および例文(14a)～(14f)が示すように、‘I-게 되다’は直説法、推量法、目撃法の終止形語尾との結合は可能であるが、意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾との結合は不可能である。結合が成立しない後者の3つについてそれぞれ考えてみよう。まず、意志法の終止形語尾との結合が不可能なのは、‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の作用対象である事態の成立可否が、主動子によって決定されるのではなく、拮抗子によるものであることに起因する。意志法の終止形語尾は、主動子に内在する意図に根拠を置きつつ当該の事態を実現させようとする働きかけ、すなわち「意志」を表すために機能する。‘I-게 되다’の「疑似被動」の意味と意志法の終止形語尾の「意志」の意味は相反するため、例文(14d)は非文になるのである。2つ目に、命令法の終止形語尾との結合について見

てみよう。命令法は、「拮抗子が話し手であり、主動子が聞き手である」という制約を持ち、「拮抗子が主動子を拘束(または支配)する」という関係を形成するという点で‘I-게 되다’の「疑似被動」と類似した特徴を持つ。類似した特徴を持つため、親和性が高そうに思われるが、‘I-게 되다’と命令法の終結語尾の結合は成立しない。命令法は、「行為」を対象に機能するという性質上、原則として動詞の語幹に直接結合して用いられる。ところが、動詞の語幹に‘I-게 되다’が結合すると、動詞の性質が「行為的」なものから「状況的」なものへと変化してしまう²⁰⁾。このため、‘I-게 되다’に命令法の終結語尾が後続することは許容されず、例文(14e)は非文になるのである。3つ目に、勧誘法の終止形語尾が‘I-게 되다’に結合出来ない理由について述べよう。勧誘法も命令法と同様に²¹⁾、「拮抗子である話し手が主動子である聞き手の行為を拘束(または支配)する」という関係を形成し、「行為」を対象に機能する。したがって、‘I-게 되다’に勧誘法の終止形語尾が結合した例文(14f)も非文と見なされるのである。

意志法、命令法、勧誘法の終結語尾の後続は許容されないが、直説法、推量法、目撃法の終止形語尾といったムード形式との結合が許容されるという事実から、‘I-게 되다’が命題の構成要素になり得る、すなわち、ムード形式の作用領域の内

²⁰⁾ 例えば以下の例文(イ)と(ロ)を比較してみよう。例文(イ)も例文(ロ)も同格連体節の被修飾体言として名詞の‘행위(行為)/상황(状況)’を取っている。動詞の‘작성하다(作成する)’の語幹に連体形語尾の‘I-는’が結合している例文(イ)の場合は、‘행위’も‘상황’も被修飾体言として自然に使用が出来る。ところが、‘작성하다’の語幹に‘I-게 되다’が結合し、そこに‘I-는’が後続している例文(ロ)の場合は、‘상황’しか被修飾体言として使用が出来ない。これは、‘I-게 되다’が結合することによって、同格連体節の被修飾体言として共起する名詞の意味特性が「状态的」なものに限定されてしまい、「行為的」なものは共起出来なくなってしまうことを示唆している。

(イ) 경찰관이 진술서를 작성하는 {행위/상황}(이)란 이런 것이다.

警察官が陳述書を作成する{行為/状況}とは、こういうことである。

(ロ) 경찰관이 진술서를 작성하게 되는 {행위/상황}(이)란 이런 것이다.

警察官が陳述書を作成することになる{行為/状況}とは、こういうことである。

なお、‘I-게 하다’に連体形語尾の‘I-는’が後続し、同格連体節で使用された場合は以下の例文(ハ)が示すように、被修飾体言として名詞の‘행위’と‘상황’の両方を共起させることが出来る。このことから、‘I-게 하다’の場合は、同格連体節の被修飾体言の意味特性を「状況的」なものに限定するというような特徴は持っていないと言える。

(ハ) 경찰관에게 진술서를 작성하게 하는 {행위/상황}(이)란 이런 것이다.

警察官に陳述書を作成させる{行為/状況}とは、こういうことである。

²¹⁾ 勧誘法は命令法に比べて、聞き手に対する拘束の程度が弱いという点で異なる。

側に位置する文法形式であることが分かる。

次に, ‘I-게 되다’と否定形式および不可能形式との結合について見てみよう。以下の例文(15a)~(15d)が示すように, ‘I-게 되다’は否定形式の‘I-지 않다’については先行および後続の両方を許容するが²²⁾, 不可能形式の‘I-지 못하다’については先行のみを許容する。既に上掲の例文(3a)および(3c)を通じて確認したように, ‘되다’自体は‘I-지 못하다’の後続を許容するが, ‘I-게 되다’という分析的な形としては‘I-지 못하다’の後続を許容しない。これは脱範疇化の現象であり, ‘I-게 되다’が文法化の過程にあることを示唆している。

- (15) a. 이 기재에 의하여 발행인은 인수가 없음을 이유로 하는 소구를 받지 않게 된다. <21 세기 세종계획 2BH9910>
この記載によって, 発行人は人数がいなことを理由とする訴求を受けないことになる。
- b. 아들의 사업 성공 덕분에 그 어머니는 ‘부자집 사모님’이라는 소리를 듣게 되지 않았을까요? <作例>
息子の事業の成功のおかげで, その母親は「お金持ちの家の奥様」と呼ばれることになったのではないのでしょうか?
- c. 만일, 치료적 대화에 외재적인 이유, 특히 의료체계의 재정적 한계 때문에 의사가 환자에게 시술할 수 있는 의료기술을 다 사용하지 못하게 된다면, 치료적 대화를 펼치라는 의료생활세계의 규범적 명령이 의료체계의 기능을 억지로라도 유지시키라는 기능적 명령에 의해 완전히 점령당하고 마는 셈이 된다.
<21 세기 세종계획 BRHO0385>
万が一, 治療的對話に外在的な理由, 特に医療体系の財政的限界のせいで, 医師が患者に施術することが出来る医療技術を全て使用することが出来なくなるとすれば, 治療的對話を繰り広げよという医療生活世界の規範的命令が, 医療体系の機能を無理やりにでも維持させよという機能的命令によって完全に占領されてしまうということになる。
- d. *의료체계의 재정적 한계 때문에 의사가 의료기술을 제대로 사용하지 못한다.

次に, 「過去」を表す接尾辞である‘III-ㅁ-’との結合について見てみよう。以下

²²⁾ ‘I-게 되다’に否定形式の‘I-지 않다’が後続するのは主に修辞疑問文であり, 平叙文での出現は一般的ではない。

の例文(16a)および(16b)が示すように, ‘I-게 되다’は‘III-ㅁ-’の先行は許容しないが, 後続は許容する. ‘III-ㅁ-’の先行を許容しないのは, ‘I-게 되다’の構成要素の1つである‘I-게’の本来の統辞的特徴に由来するものである. したがって例文(16a)は非文と見なされる. 一方, 例文(16b)のように, ‘I-게 되다’に‘III-ㅁ-’の後続が許容されることから, ‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の意味が過去の出来事として捉えられることが可能であることが分かる.

- (16) a. *너 덕분에 그녀가 좋은 성과를 냈게 된다.
 b. 이 두 가지의 현상에 의해 연초재배는 상품경제체제를 지향하던 농민들에게 주목받는 작물로 자리를 잡게 되었다.

〈21세기 세종계획 BRHO0100〉

この2つの現象によって, 煙草栽培は商品経済体制を志向していた農民たちから注目を受ける作物として根を下ろすことになった.

続いて, 「蓋然性」を表す接尾辞の‘I-겠-’との結合について見てみよう. 以下の例文(17a)および(17b)が示すように, ‘I-게 되다’に‘I-겠-’が先行することは不可能であるが, 後続することは可能である. 元々, ‘I-게’には‘I-겠-’が先行しないという統辞的制約があり, この制約が‘I-게 되다’にも備わっている. よって, 例文(17a)は非文になる. 一方, (17b)のように, ‘I-게 되다’に‘I-겠-’が後続する場合は許容されることから, ‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の意味が認識的モダリティの作用領域の内側に位置し得ることが分かる.

- (17) a. *나 때문에 그녀가 혼나겠게 된다.
 b. 전도사님 때문에 우리도 살게 되겠구먼.

〈21세기 세종계획 4BE87001〉

伝道師様のせいで, 私達も生きることになりそうだね.

本節の締めくくりとして, モーダルな意味を表す各種の分析的な形との結合の可否についての考察結果を示す. まずは, 認識的モダリティを表す分析的な形との結合可否について述べ, 次に, 参与者志向モダリティを表す分析的な形との結合可否について述べる.

以下の例文(18a)および(18b)では, ‘I-게 되다’に‘II-ㄴ 것이다’または‘II-ㄴ 모양이다’がそれぞれ後続しており, ‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の事柄を対象に判断主体による「推量」が表されている. 上の例文(17b)における‘I-게 되다’に‘I-겠-’が後続する現象と同じく, 例文(18a)および(18b)を通じて, ‘I-

게 되다'によって表される「疑似被動」の意味が, 認知的モダリティの作用対象になり得ることが分かる. なお, 以下の例文(18c)が示すように, 'I-게 되다'に'II-ㄴ 것이다'や'II-ㄴ 모양이다'が先行することは不可能である. すなわち, 'I-게 되다'は認知的モダリティを対象には作用が出来ないのである.

- (18) a. 밀렵꾼들 때문에 일반 조수류는 물론이고 천연기념물 등 보호 대상도 이대로 가다가는 정말로 씨가 마르게 될 것이다.
 <21 세기 세종계획 CH000113>
密漁者達のせいで, 一般の鳥獣類は勿論のこと, 天然記念物等の保護対象もこのまま行けば本当に種が減ぶことになるだろう.
- b. 그는 친구의 말을 들으면서 평소에 냉철하고 정연한 논리로 상대방을 압도하던 그가 그 동안의 고통스런 경험으로 인해 자기의 일관성에 대해서마저 의심을 품게 된 모양이라고 생각하며 우울해졌다. <21 세기 세종계획 4BE89001>
 彼は, 友人の言葉を聞きながら, 普段は冷徹で整然とした論理で相手を圧倒していた彼が, その間の苦痛な経験のせいで, 自分の一貫性に対してさえも疑いを抱くようになったようだと思い, 憂鬱になった.
- c. *저 사람의 협조로 인해 실험이 {성공할 것이/성공한 모양이} 게 된다.

続いて, 参与者志向モダリティを表す分析的な形との結合について見てみよう. 以下の例文(19a)~(19f)が示すように, 「許可」または「譲歩」を表す'III-도 되다', 「禁止」を表す'II-면 안 되다', 「義務」または「当為」を表す'III-야 하다', 「推奨」を表す'II-면 되다', 「可能」を表す'II-ㄴ 수 있다'は'I-게 되다'に先行することが出来るが, 「意志」を表す'II-려고 하다'は'I-게 되다'に先行することが出来ない. 例文(19a)~(19e)において, 'III-도 되다', 'II-면 안 되다', 'III-야 하다', 'II-면 되다', 'II-ㄴ 수 있다'のそれぞれはいずれも「主動子を取り巻く外的要因が作用することで, 主動子をして特定の事態の成立または不成立を促す」という共通特徴を有する. このような特徴は, 「他の存在からの影響によって, ある状況へと変化すること」を表す'I-게 되다'の「疑似被動」の特徴との親和性が高い. 一方, 例文(19f)における'II-려고 하다'は「主動子に内在する意志が作用することで, 主動子が自発的に特定の事態を成立させようとする働きかけ」を表す. このような特徴は, 'I-게 되다'の「疑似被動」の特徴とは相反する. したがって, 例文(19f)は非文と見なされるのである.

- (19) a. 선생님이 써 주신 추천서 덕분에 그녀는 그 모임에 참가해도 되게 되었다. <作例>
先生がお書き下さった推薦書のおかげで、彼女はその集まりに参加しても良いことになった.
- b. 규칙 때문에 학생들은 사복을 입으면 안 되게 되어 있다. <作例>
規則のため、学生達は私服を着てはいけないことになっている.
- c. 부장님께서 내리신 지시에 따라 저는 미국 출장을 가야 하게 됐습니다. <作例>
部長が出された指示にしたがって、私はアメリカ出張に行かなければならなくなりました.
- d. 기술 발달에 의해 국민들은 연말정산을 온라인으로 신청하면 되게 되었다. <作例>
技術の発達によって、国民達は年末調整をオンラインで申請すれば良いことになった.
- e. 세히 덕분에 예리는 다시 수영을 할 수 있게 되었다.
 <21세기 세종계획 BREO0303>
セヒのおかげで、イェリは再び水泳をすることが出来るようになった.
- f. *영희 때문에 철수는 집에 빨리 가려고 하게 되었다.

なお, ‘I-게 되다’に‘III-도 되다’, ‘II-면 안 되다’, ‘III-야 하다’, ‘II-면 되다’といった分析的な形が後続することは不可能であり, 以下の例文(20a)~(20d)はいずれも非文と見なされる. このことから, ‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の意味は, 参与者外的モダリティの作用対象になり得ないことが分かる. 参与者外的モダリティの文法形式は, 命令法および勧誘法の終止形語尾と同様に, 「行為」を表す事態を対象に機能するという性質上, 動詞の語幹に直接結合するのが一般的である. ‘I-게 되다’が動詞の語幹に結合すると, 「行為的」なものから「状況的」なものへと事態の意味性質が変化するため²³⁾, ‘I-게 되다’に参与者外的モダリティの文法形式が後続することは不可能なのである. 一方, 例文(20e)では, ‘I-게 되다’に‘II-ㄴ 수도 있다’が後続し²⁴⁾, 自然な文として成り立つ

²³⁾ ‘I-게 되다’が動詞の語幹に結合した場合, 事態の意味性質を「状況的」なものへと変化させることについては, 脚注の 20)において説明したとおりである.

²⁴⁾ 例文(20e)で‘I-게 될 수도 있다’とあるように, 特殊助詞の‘-도’が挿入されることで「可能性」の意味が表わされやすくなる.

ているが、この場合の‘II-ㄴ 수도 있다’は認知的モダリティとして機能しており、先行する命題に対する「可能性」を示している。また、例文(20f)では、‘I-게 되다’に‘II-려고 하다’が後続しているため、非文として見なされる。‘I-게 되다’と‘II-려고 하다’が相容れない特徴を持つことは上で既に述べたとおりである。

- (20) a. *선생님이 써 주신 추천서 덕분에 그녀는 입학시험 없이 학교에 들어가게 되어도 되었다.
 b. *규칙 때문에 학생들은 사복을 입게 되면 안 되어 있다.
 c. *화학공장에서 일어난 사고로 인해 주민들은 오염된 물을 마시게 되어야 하였다.
 d. *기술 발달에 의해 국민들은 연말정산을 온라인으로 신청하게 되면 되었다.
 e. 세희 덕분에 예리는 다시 수영을 하게 될 수도 있다. <作例> 세희のおかげで, イエリは再び水泳をすることになる可能性もある。
 f. *영희 때문에 철수는 집에 빨리 가게 되려고 했다.

上記の例文(15)~(20)を通じて明らかになった内容をもとに、‘I-게 되다’と各種の文法形式との結合可否について、下の<表 3>のとおり整理することが出来る。

<表 3> ‘I-게 되다’と各種の文法形式との結合可否

文法形式	‘I-게 되다’との結合可否	
	先行	後続
I-지 않다	○	○
I-지 못하다	○	×
III-ㄴ-	×	○
I-겠-	×	○
II-ㄴ 것이다	×	○
II-ㄴ 모양이다	×	○
III-도 되다	○	×
II-면 안 되다	○	×
III-야 하다	○	×
II-면 되다	○	×
II-ㄴ 수(도) 있다	○	○
II-려고 하다	×	×

‘I-게 되다’によって表される「疑似被動」の特徴をまとめると、次のとおりである。第1に、「否定」の作用対象になることが可能であり、第2に、「過去」の作用対象になることが可能であり、第3に、認識的モダリティの作用対象になることが出来るということである。また、4つ目の特徴として、「不可能」、「可能」、「許可/譲歩」、「禁止」、「義務/当為」、「推奨」等の参与者外的モダリティを対象に‘I-게 되다’が作用することはあっても、反対に、参与者外的モダリティが‘I-게 되다’を対象に作用することはないということが明らかになった。

3. ‘I-게 하다’との比較

ここでは、力のダイナミックスの観点およびモダリティの観点から「疑似被動」を表す‘I-게 되다’と「使役」を表す‘I-게 하다’を比較してみよう。

3.1. 力のダイナミックスの観点からの比較

‘I-게 되다’と‘I-게 하다’の比較に先立ち、力のダイナミックスの観点から「使役」とモダリティについて論じている Ilić(2013)の見解を簡単に紹介する。Ilić(2013: 14)では、「統制(control)²⁵⁾」の観点から使役文(使役動詞が使用された文)とモーダル文(モーダルな助動詞が使用された文)に対する意味論的特徴の考察を通じて、使役文の場合は、事態の統制者(すなわち、拮抗子)が「使役者」として顕在的に現れ、事態の動作主(すなわち、主動子)である「被使役者」と明確に区別されるのに対し、モーダル文の場合は、事態の統制者は随意的に文中に現れるため、潜在的であるという見解が示されている²⁶⁾。

Ilić(2013)の見解を参考にしつつ、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’を「統制」の観点から考察すれば、下記の<表4>のように示すことが出来る²⁷⁾。<表4>の内容に関する理解のため、2.2において示した例文(8a)と(8b)をここに再掲し、これら2つの文の比較を通じて説明する。

²⁵⁾ 「統制」とは、事態の成立を左右する要因が拮抗子によって管理されることを意味する。

²⁶⁾ Ilić(2013)の見解については、高地(2020: 39-41)においてより詳しく紹介されている。

²⁷⁾ 朝鮮語の場合は英語のような言語とは異なり、主語であれ客語であれ、文脈的に把握が可能であれば、文において省略され得るため、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’が使用された文における統制者について「顕在/潜在」の観点で記述するのは適切ではない。

〈表 4〉「統制」の観点から見た‘I-게 되다’と‘I-게 하다’

文法形式	統制者(拮抗子)	被統制者(主動子)
‘I-게 되다’	客語として標示	主語として標示
‘I-게 하다’	主語として標示	主語 ²⁸⁾ または客語として標示 (但し, いずれの場合も‘I-게 하다’ に先行する用言の意味上の主語と して扱われる.)

例文(8a)および(8b)では, いずれも「事態=本を読む, 統制者=チョルス, 被統制者=ヨンイ」という内容を含んでおり, 同一の事態に同一の役割が登場している. まず, ‘I-게 되다’の場合は, 例文(8b)の‘철수에 의하여(チョルスによって)’のように, 統制者が客語として標示され, ‘영이가(ヨンイが)’のように被統制者が主語として標示されている. 一方, ‘I-게 하다’の場合は, 例文(8a)の‘철수가(チョルスが)’のように, 統制者が主語として標示され, ‘영이를(ヨンイに)’のように, 被統制者が客語として標示されている. なお, ‘I-게 하다’が使用された文では, 被統制者が‘I-게 하다’に先行する用言の意味上の主語として機能する点が, ‘I-게 되다’が使用された文とは異なる特徴である.

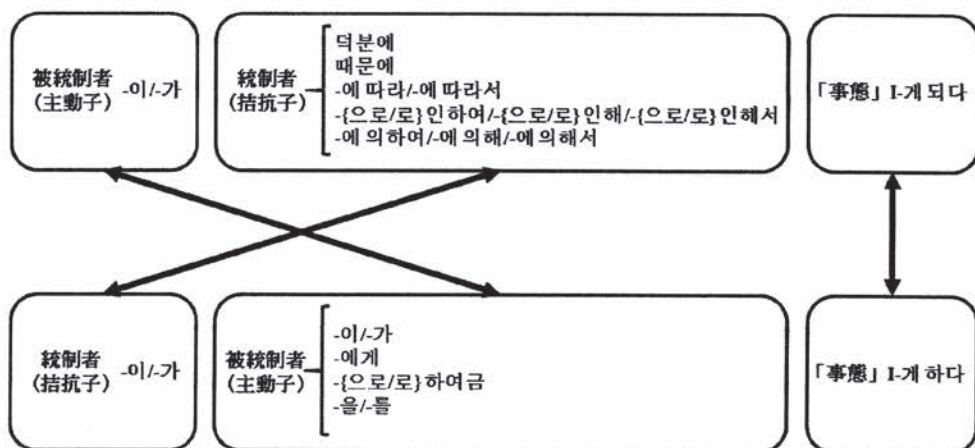
- (8) a. 철수가 영이를 책을 읽게 했다. <再掲>
 チョルスがヨンイに本を読ませた.
 b. 영이가 철수에 의하여 책을 읽게 되었다. <再掲>
 ヨンイがチョルスによって本を読むことになった.

‘I-게 되다’と‘I-게 하다’は, 以下の〈図 1〉が示すように, 拮抗子と主動子に対する焦点化において「コインの表と裏」のような関係を成す. ‘I-게 되다’の場合, 2.3 の〈表 1〉で整理したとおり, 主動子は主語として表わされ, 拮抗子は‘덕분에’, ‘때문에’, ‘-에 따라/-에 따라서’, ‘-{으로/로} 인하여/-{으로/로} 인해/-{으로/로} 인해서’, ‘-에 의하여/-에 의해/-에 의해서’等とこれらに先行する名詞(または名詞句)によって表わされる. 一方, ‘I-게 하다’の場合, 高地(2020: 45-46)による考察にしたがえば, ‘I-게’に先行する用言の意味上の主語と‘하다’の主語が一致せず, 前者によって「被使役者」である主動子が表され, 後者によって「使役者」である拮抗子が表される. すなわち, ‘I-게 되다’と‘I-게 하다’は, 同一の事態について同一の拮抗子と主動子に焦点を当てつつも, 互いに異なる視点から観察

²⁸⁾ 例えば, ‘統制者(拮抗子)-이/-가 被統制者(主動子)-이/-가 用言語幹-게 하다’のような構文において‘被統制者(主動子)-이/-가’がこれに該当する.

し、それを言語的に表現するものであると言える。

〈図 1〉‘I-게 되다’と‘I-게 하다’の関係



3.2. モダリティの観点からの比較

まずは、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’がどのようなモーダルな意味を表すのか把握する。次に、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’にどのようなモーダルな文法形式の後続が可能なのか把握する。3つ目に、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’のモダリティの程度性(degrees of modality)を把握する。

3.2.1. 表されるモーダルな意味

‘I-게 되다’が「疑似被動」の意味を表す場合、モーダルな意味が表されることがある。例えば、以下の例文(21a)では「当為」の意味、例文(21b)では「義務」の意味、例文(21c)では「可能」の意味がそれぞれ表されている。これらはいずれも、主動子を取り巻く外的要因が拮抗子として機能し、当該の事態が成り立つことを表すモーダルな意味である。例文(21a)では、主動子である‘학생들과 교수들(学生達と教授たち)’を対象に‘법령(法令)’が拮抗子として機能することで、主動子に対する「当為」が表されている。例文(21b)では、‘종두규칙(種痘規則)’が拮抗子として機能することで主動子である‘전국민(全国民)’に対する「種痘実施」という「義務」が表されている。また、例文(21c)の場合は、‘이베이(eBay)’という企業が拮抗子として機能し、そのおかげで主動子である‘많은 기업들과

조직들(多くの企業と組織)’による「既存業務を拡大する」という事態の成立が「可能」になったことが表されている。例文(21a)～(21c)を通じて、参与者外的モダリティに該当するモーダルな意味が‘I-게 되다’によって表され得ることが分かる²⁹⁾。

- (21) a. 이러한 법령에 의하여 대학가에서는 무수한 학생들과 의식 있는 교수들이 구속되거나 대학을 떠나게 되었다.

〈21세기 세종계획 4BG00001〉

このような法令のせいで, 大学周辺の街では無数の学生達と意識を持った教授達が拘束されたり, 大学を離れることになったりした。

- b. 이 종두규칙에 의하여 이제는 전국민이 의무적으로 종두를 실시하게 되고 천연두를 예방 퇴치할 수 있게 되었다.

〈21세기 세종계획 2BH9431〉

この種痘規則によって, 今や全国民が義務的に種痘を実施することになり, 天然痘を予防退治することが出来るようになった。

- c. 많은 회사들과 조직들은 이베이 덕분에 그들의 기존 업무를 확장하게 되었다.

〈21세기 세종계획 5BH01003〉

多くの会社と組織は, eBayのおかげで, それらの既存業務を拡大することになった。

一方, ‘I-게 하다’の場合も, 高地(2020: 59)によれば, 「許可」, 「命令」, 「指示」といった拘束的モダリティ³⁰⁾に該当するモーダルな意味が表されると言う。参考までに, 高地(2020: 59)で示された例文³¹⁾を以下に記しておく。

²⁹⁾ ‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるための条件については, 後述の第4章にて説明する。

³⁰⁾ ‘I-게 하다’によって表される「許可」, 「命令」, 「指示」の意味は, いずれも拮抗子の都合により主動子を外的に拘束するため拘束的モダリティに該当すると言える。なお, ‘I-게 되다’によって表される「当為」および「義務」の意味も同様である。しかしながら, ‘I-게 되다’によって表される「可能」の意味は, 拮抗子の都合により主動子を拘束するものではなく, 主動子に利益になるような外的な働きかけをするものであるため, 参与者外的モダリティと見なすべきであろう。但し, 拘束的モダリティも参与者外的モダリティの下位カテゴリーであることを考えると, ‘I-게 되다’と‘I-게 하다’はどちらも参与者外的モダリティに該当するモーダルな意味を表すという点で共通していると言える。

³¹⁾ 例文(22a)～(22c)は, 高地(2020: 59)から引用したものであるが, 例文そのものの本来の出

- (22) a. 에스케이텔레콤은 영상통화료를 내년 3 월에 정하기로 하고,
그 전까지는 무료로 이용하게 했다. <高地(2020)>
SKテレコムは、映像通話料を来年の3月に決めることにし、そ
の前までは無料で利用させた。
- b. 공직선거법의 개정으로 국회의원 등 선거직 후보자에게 전과
와 납세 실적을 공개하게 한 것은 공직자의 자질과 능력을 검
증하는 장치를 제도화하는 것으로 잘한 일이다. <高地(2020)>
公職選挙法の改正で、国会議員などの選挙職の候補者に前科と納
税実績を公開させたのは、公職者の資質と能力を検証する装置を
制度化するものとして正しいことだ。
- c. 고등학교 2 학년 때, 일반 국어와는 달리 고문을 담당하는
교사가 첫 수업 시간에 선택과목인 고문을 왜 신청했는지
학생 한 사람 한 사람에게 대답하게 했다. <高地(2020)>
高等学校2年生の時、一般の国語とは異なり、古文を担当する教
師が、最初の授業の時間に選択科目である古文をなぜ申請したの
か、学生の1人1人に答えさせた。

‘I-게 되다’와 ‘I-게 하다’가,いずれも参与者外的モダリティを表し得るという
共通点を持っていることが分かる。これは、‘I-게 되다’와 ‘I-게 하다’가同一の事
態を描写するということから考えれば、当然のことであろう。

3.2.2. モーダルな文法形式の後続

ここでは、モーダルな文法形式の後続に関して比較を行う。以下の<表 5>が示
すとおり、‘I-게 되다’の場合、認識的モダリティの文法形式の後続は許容するが、
参与者志向モダリティの文法形式の後続は許容しない。

一方、‘I-게 하다’の場合、認識的モダリティおよび参与者志向モダリティの
いずれの文法形式の後続に関しても制約が無い。参考までに、‘I-게 하다’に参与
者志向モダリティの文法形式が後続した例文を高地(2020: 53-56)から引用し³²⁾、
例文(23a)～(23g)として以下に記しておく。

典は『21世紀世宗計画』である。

³²⁾ 例文(23a)～(23g)は、高地(2020: 53-56)から引用したものであるが、例文そのものの本来
の出典は『21世紀世宗計画』である。

〈表 5〉 モーダルな文法形式の後続の可否³³⁾

モーダルな文法形式		後続の可否	
		‘I-게 되다’の場合	‘I-게 하다’の場合
認知的 モダリティ ³⁴⁾	I-겠-	○	○
	II-ㄴ 것이다	○	○
	II-ㄴ 수 있다	○	○
参与者志向 モダリティ	III-도 되다	×	○
	II-면 안 되다	×	○
	III-야 하다	×	○
	II-면 되다	×	○
	I-지 못하다	×	○
	II-려고 하다	×	○

- (23) a. 나라일을 맡아 보는 사람 곧 공무원에게는 생활의 위협을 느끼도록 박봉을 준다는 것은 공무원으로 하여금 조금도 나라 은혜를 느끼게 하지 못하는 것이다. 〈高地(2020)〉
 国の仕事を預かる人, すなわち公務員には生活の脅威を感じるように, 薄給を与えるということは, 公務員をして少しも国の恩恵を感じさせることが出来ないのである.
- b. 자기 글을 스스로 다듬게 해도 된다. 〈高地(2020)〉
 自分の文章を自ら整えさせても良い.
- c. 환자가 의식 불명이거나 경련을 일으키고 있을 때에는 절대로 토하게 하면 안 되며, 아무리 약한 것이라도 술은 절대로 먹이지 말아야 한다. 〈高地(2020)〉
 患者が意識不明だったり, 痙攣を起こしていたりする時には, 絶対に吐かせてはいけないし, どんなに弱いものだとしても酒は絶対に飲ませてはいけない.
- d. 때로는 원하는 것을 포기하는 결단력도 필요하며, 나눔과 봉사를 통해 다른 사람을 행복하게 할 수 있는 사회 정의를 느끼게 해야 한다. 〈高地(2020)〉

³³⁾ ‘I-게 되다’については2.4の〈表 3〉を, 一方, ‘I-게 하다’については高地(2020: 58)による考察内容をもとに〈表 5〉を作成した.

³⁴⁾ ‘I-겠-’, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘II-ㄴ 수 있다’には認知的モダリティと参与者志向モダリティの両用法が備わっており, 文脈によってどちらかのモダリティの用法が現れるが, ここでは便宜上, 認知的モダリティの用法を表す場合に限ることにする.

時には望むものを諦める決断力も必要であり, 分配と奉仕を通じて他の人を幸福にすることが出来る社会の正義を感じさせなければならぬ。

- e. 이를 고치려면 손상된 부위에 건강한 세포가 자라나게 하면 된다. <高地(2020)>

これを治そうとするなら損傷した部位に健康な細胞が育つようにすれば良い。

- f. 징벌위원회가 징벌을 결정함에 있어서는 징벌혐의자를 위원회에 출석하게 하여 징벌혐의 내용을 심문하고 그의 진술을 들어야 하고 필요한 때에는 관계인을 출석하게 할 수 있다.

<高地(2020)>

懲罰委員会が懲罰を決定することにおいては, 懲罰容疑者を委員会に出席させ, 懲罰容疑の内容を審問し, その陳述を聴かなければならず, 必要な時には関係人を出席させることが出来る.

- g. 왜냐하면 이탈리아가 프랑스에 반하여 자신의 이익을 위한 지지를 얻기 위해 3 국동맹에 대한 독일의 증폭된 의존을 이용하려 했을 때 홀슈타인은 영국으로 하여금 프랑스의 공격으로부터 이탈리아를 보호하게 하려고 했기 때문이었다.

<高地(2020)>

なぜならば, イタリアがフランスに反して自身の利益のための支持を得るために 3 国同盟に対するドイツの増幅した依存を利用しようとした時, ホルシュタインは英国をしてフランスの攻撃からイタリアを保護させようとしたためであった。

김윤신 (2018: 98)가指摘するように, ‘I-게 되다’는, ‘I-게’에先行する用言の主語と‘되다’の主語が一致する. よって, ‘I-게 되다’に参与者志向モダリティの文法形式が後続した場合, 事態の被統制者である主動子が参加する事態に‘I-게 되다’が先に作用すると, 当該事態が「行為的」なものから「状況的」なものへと意味性質の変化を起こしてしまう. その後で, 参与者志向モダリティが追加で作用してしまうことになり, 意味上の齟齬が生じてしまう. このため, ‘I-게 되다’に参与者志向モダリティの文法形式は後続することが出来ない. これとは異なり, ‘I-게 하다’の場合は, ‘I-게’に先行する用言の意味上の主語と‘하다’の主語が一致せず, 前者によって事態の被統制者である主動子が表され, 後者によって統制者である拮抗子が表される. したがって, ‘I-게 하다’に参与者志向モダリティの文法形式が後続した場合, 「使役」の意味は主動子を対象に作用し, 参与者志向モダリティは拮抗子を対象に機能するため, 意味上の齟齬が生じないのであ

る。‘I-게 하다’は、‘I-게 되다’とは異なり、事態の意味性質を「状況的」なものへと変化させることはないのである。

モーダルな文法形式の後続に関して生じる‘I-게 되다’と‘I-게 하다’の違いは、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’が同一の事態を描写しつつも、それぞれ異なる視点から捉えていることを如実に表している。すなわち、‘I-게 되다’は主動子の視点から事態を捉えるものであり、一方、‘I-게 하다’は拮抗子の視点から事態を捉えるものであるということである。

3.2.3. モダリティの程度性

続いて、‘I-게 되다’がどれほどムード形式に類似した特徴を備えているのかを把握するため、モダリティの程度性の観点から考察を行う。モダリティの程度性とは、典型的なムード形式が持つ意味的および統辞的特徴を基準として見た場合に、分析的な形がどの程度ムード形式に類似した特徴を持っているのかについて測定する、すなわち分析的な形と典型的なムード形式の近接性を測るための基準のことを言う。

다카치(2018: 115)にしたがい、モダリティの程度性の測定項目を下の<表 6>³⁵⁾のとおりとする。第1に、<表 6>の(a)の項目に関して、‘I-게 되다’は例文(21a)～(21c)が示すように、参与者外的モダリティ(拘束的モダリティを含む)に該当するモーダルな意味を表すことがある。したがって、<表 6>の(a)についてはモダリティ的であると判断することが出来る。第2に、‘I-게 되다’は、話し手による「推量」や話し手自身の「意志」等のような話し手の態度に関するモーダルな意味を表さない。したがって、<表 6>の(b)の項目については非モダリティ的であると言える。第3に、‘I-게 되다’は、例文(15b)を通じて確認したように、否定形式の‘I-지 않다’の後続を許容する。したがって、<表 6>の(c)の項目においても非モダリティ的であると言える。第4に、‘I-게 되다’は、例文(16b)が示すように、過去時制形式の‘III-ㅁ-’の後続を許容する。よって、<表 6>の(d)の項目に関しても非モダリティ的であると言える。第5に、‘I-게 되다’は、例文(17b), (18a), (18b)で確認したように認知的モダリティの機能を持つ文法形式の後続を許容するため、<表 6>の(e)に関しても非モダリティ的な特徴を持つと言える。

³⁵⁾ <表 6>の(a)および(b)は典型的なムード形式の意味的特徴を、一方、(c)～(e)は統辞的特徴を反映した測定項目である。モダリティの程度性については、高地(2016: 72-73)および다카치(2018: 117)で詳しく説明されている。

〈表 6〉 モダリティの程度性の測定項目³⁶⁾

(a) モーダルな意味を表す.	○	モ
	×	非モ
(b) 話し手の態度に関するモーダルな意味のみを表す.	○	モ
	×	非モ
(c) 否定形式の作用領域の外に位置する.	○	モ
	×	非モ
(d) 過去時制形式の作用領域の外に位置する.	○	モ
	×	非モ
(e) 認知的モダリティもしくは頻度性の機能を持つ他の文法形式の後続が制限される.	○	モ
	×	非モ

以上をもとに, ‘I-게 되다’のモダリティの程度性を整理すれば, 以下の〈表 7〉のとおりである.

〈表 7〉 ‘I-게 되다’のモダリティの程度性

(a) モーダルな意味を表す.	○	モ (特定の条件下で)
(b) 話し手の態度に関するモーダルな意味のみを表す.	×	非モ
(c) 否定形式の作用領域の外に位置する.	×	非モ
(d) 過去時制形式の作用領域の外に位置する.	×	非モ
(e) 認知的モダリティもしくは頻度性の機能を持つ他の文法形式の後続が制限される.	×	非モ

参考までに, 高地(2020: 61-62)において示された‘I-게 하다’のモダリティの程度性³⁷⁾を〈表 8〉として以下に示す. 〈表 7〉と〈表 8〉の比較から明らかなように, モダリティの程度性において‘I-게 되다’と‘I-게 하다’に差は無く, 両者が共に典型的なムード形式とは随分異なる特徴を持つことが分かる. ‘I-게 되다’と‘I-게 하다’が文によってモーダルな意味を表すことはあっても, 両者をムード形式と

³⁶⁾ 〈表 6〉～〈表 8〉において「モ」は「モダリティ的」であることを意味し, 「非モ」は「非モダリティ的」であることを意味する.

³⁷⁾ 紙面の都合上, ここでは〈表 8〉に関連する‘I-게 하다’の例文を提示しない. ‘I-게 하다’のモダリティの程度性に関する詳細な記述は高地(2020)が参考になる.

して扱うことは出来ないと判断すべきである³⁸⁾。

〈表 8〉 ‘I-게 하다’ のモダリティの程度性 〈高地(2020)〉

(a) モーダルな意味を表す.	○	モ (特定の条件下で)
(b) 話し手の態度に関するモーダルな意味のみを表す.	×	非モ
(c) 否定形式の作用領域の外に位置する.	×	非モ
(d) 過去時制形式の作用領域の外に位置する.	×	非モ
(e) 認識的モダリティもしくは頻度性の機能を持つ他の文法形式の後続が制限される.	×	非モ

3.2.1～3.2.3 までの比較結果を整理すれば、以下の〈表 9〉のとおりである。

〈表 9〉 モダリティの観点からの比較結果

比較項目	‘I-게 되다’	‘I-게 하다’
(a) 表され得るモーダルな意味	「当為, 義務, 可能」	「命令, 指示, 許可」
(b) 後続可能な文法形式のモダリティ属性	認識的モダリティ	認識的モダリティ 参与者志向モダリティ
(c) モダリティの程度性	極めて低い	極めて低い

既に 3.1 で確認したように, ‘I-게 되다’ と ‘I-게 하다’ は「コインの表と裏」のような関係を成し, 同一の事態を別の視点から捉える文法形式である。よって, モーダルな意味およびモダリティの程度性において共通するのも納得が行く。しかしながら, 同一の事態を捉える視点が異なるため, 後続出来るモーダルな文法形式については両形式の間に違いが生じてしまう。‘I-게 되다’ の場合は, 認識的モダリティの文法形式のみが後続可能であり, 一方, ‘I-게 하다’ の場合は, 認

³⁸⁾ ムード形式には典型的なものとそうでないものが存在するが, 全てのムード形式に共通して言えることは, それらがモーダルな意味を表すために主に機能するということである。よって, モダリティの程度性が低いものだとしても, モーダルな意味を表すための専用の文法形式である場合は, ひとまずはムード形式に含めることが可能である。‘I-게 되다’ と ‘I-게 하다’ をムード形式として見なすことが出来ない理由は, これらが特定の条件下でのみモーダルな意味を表すに過ぎず, これらの主たる機能は「変化」または「使役」を表すところにあるためである。

識的モダリティのみならず参与者志向モダリティの文法形式もが後続可能であることが明らかになった。

4. ‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるための条件

上の 3.2.3 で見たように, ‘I-게 되다’はモーダルな意味を表す場合があるにはあるが, モダリティの程度性は極めて低く典型的なムード形式とは意味的にも統辞的にもかけ離れた特徴を持つと言える。では, ‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるのはどのような条件が揃った場合なのであろうか?

まずは, ‘I-게 되다’に先行する用言に注目してみよう。以下の例文(24a)では, 形容詞の‘확실하다(確実だ)’が‘I-게 되다’に先行しており, 「変化」の意味が表されているのみである。また例文(24b)では, 被動詞の‘빼앗기다(奪われる)’が‘I-게 되다’に先行しているが, この場合も「変化」の意味が表されているに過ぎない。このように, 形容詞と被動詞が‘I-게 되다’に先行する場合は, ‘I-게 되다’がモダリティ的に機能することはないのである。これは, ‘I-게 되다’によって表され得るモーダルな意味が「当為, 義務」のような拘束的モダリティ, または「可能」のような参与者志向モダリティに該当するものであることと関係している。これらのモーダルな意味は, いずれも「事態の参与者である主動子に何らかの外的要因が作用することで, 未実現の事態の成立を左右する」ものである。「事態」は参与者による意志的な動作が関与するものであるため, 要求される用言は意志的であり且つ動作性を帯びたものでなければならない。したがって, このような条件を満たしていない例文(24a)~(24b)における‘I-게 되다’が, モダリティ的に解釈されることはないのである。

- (24) a. 러일전쟁이 마무리되던 1905년 4월 일본은 각의에서 ‘한국 보호권확립’을 결의하였고 그해 8월 2차 영일동맹과 포츠머스 조약에 의해 한국의 보호국화가 거의 확실하게 되었다는 소식이 전해지면서 일제의 한국 침략 야욕은 명백히 드러나게 되었다.
〈21세기 세종계획 7BB03B10〉
日露戦争が終わった1905年4月, 日本は閣議で「韓国保護権確立」を決議し, その年の8月、第2次日英同盟とポーツマス条約によって韓国の保護国化がほとんど確実にになったという知らせが伝えられつつ, 日帝の韓国侵略の野卑な欲望は明白に現れることになった。
- b. 마침내 국권은 일본 제국주의에 의하여 짓밟히고 빼앗기게 되

었다.

<21 세기 세종계획 2BH9419>

とうとう国権は, 日本の帝国主義によって踏み₁にじられ, 奪われ
ることになった.

次に, 主動子の意味的特性に注目してみよう. 以下の例文(25)では, 主動子が無情物の‘이들 명사(これらの名詞)’であり, ‘I-게 되다’によって「変化」の意味が表されているに過ぎない. 先にも述べたとおりであるが, 拘束的モダリティまたは参与者外的モダリティは意志的であり且つ動作性を帯びた事態を対象に作用するため, 例文(25)のように主動子の意志が欠落している場合は, ‘I-게 되다’がモダリティ的に機能することはないのである.

- (25) 이들 명사는 “노래”, “변화”와 같은 명사와 마찬가지로 이형태 생성 규칙에 의해 deriv: ha-verb 의 자질을 갖게 되므로 “하”와 결합하여 자동사를 형성한다.

<21 세기 세종계획 2BH9939>

これらの名詞は『 노래(歌)』, 『 변화(変化)』のような名詞と同様に, 異形態生成規則によって, deriv: ha-verb の資質を持つことになるため, 『하』と結合して自動詞を形成する.

結局のところ, ‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるためには, 先行用言が中心となって表される事態の内容が意志的であり且つ動作性を帯びており, 主動子が有情物(または有情物から構成される組織や団体)であることが必須である. また, 事態の成立を左右する要因が主動子側ではなく, 拮抗子側に備わっていないなければならない. これら全ての条件を満たしている以下の例文(26a)~(26b)では, ‘I-게 되다’がモダリティ的に機能している. 例文(26a)の場合は, 拮抗子である‘이슬람법(イスラム法)’が主動子である‘성년 남자의 이슬람 교도(成年男子のイスラム教徒)’に対して拘束力を作用させることにより, ‘지하드에 참가하다(ジハードに参加する)’という事態が成立するように働いている. このように, 拮抗子が主動子に対する何らかの拘束力を保持している場合は, ‘I-게 되다’が拘束的モダリティとして機能する. 一方, 例文(26b)のように, 拮抗子が主動子に対して拘束力を保持しておらず, 主動子が参与する事態を成立させるための推進力を提供したり, 切っ掛けを与えたりする場合は, ‘I-게 되다’が参与者外的モダリティとして機能する.

- (26) a. 성년 남자의 이슬람 교도는 이슬람법에 정해진 바에 따라 의 무적으로 지하드에 참가하게 되어 있다.

<21 세기 세종계획 3BD00003>

成年男子のイスラム教徒は、イスラム法に定められたところにしたがって、義務的にジハードに参加することになっている。

- b. 아버지 루 월터스는 보스턴, 마이애미, 그리고 뉴욕에서 라틴 쿼터라는 그 당시 매우 유명한 카바레를 경영하던 사람으로, 그 아버지 덕분에 바바라는 나중에 사교계에 쉽게 접근해 유명한 사람들을 취재하게 되었다.

〈21세기 세종계획 BRHO0134〉

父親のル=ウォルタースは、ボストン、マイアミ、そしてニューヨークでラテンクォーターという、その当時かなり有名なキャバレーを経営していた人であり、その父親のおかげでバーbaraは後に社交界に容易く接近し、有名な人々を取材することになった。

以上の考察内容を基に、‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるための条件を整理すれば、以下の(27a)～(27c)のとおりである。

(27) 「疑似被動」の‘I-게 되다’がモダリティ的に解釈されるための条件

- a. ‘I-게 되다’に先行する用言が、形容詞のような状態性を帯びたものではなく、動詞をはじめとした動作性を帯びたものであること。但し、被動詞はこれに該当しない。
- b. 主動子が有情物あるいは有情物から構成される組織や団体であること。
- c. 主動子が参与する事態の成立可否を左右する要因が主動子自身に内在しておらず、拮抗子によってその要因が与えられる状況であること。
 - c-1. 拮抗子が主動子に対して何かしらの拘束力を有する場合は、拘束的モダリティの「当為」または「義務」の意味として解釈される。
 - c-2. 拮抗子が主動子に対して拘束力を有していない場合は、参与者外的モダリティの「可能」の意味として解釈される。

5. おわりに

本稿では、分析的な形の‘I-게 되다’が「疑似被動」を表す場合に焦点を当て、力のダイナミックスおよびモダリティの観点からの考察を通じて「使役」を表す‘I-게 하다’との比較を行い、そして、‘I-게 되다’が参与者外的モダリティ(拘束

的モダリティを含む)に相当する意味を表すための条件を明らかにした。

力のダイナミックスの観点から見ると、‘I-게 되다’の場合、主動子が主語によって表され、拮抗子が客語によって表される。一方、‘I-게 하다’の場合は、‘I-게’に先行する用言の意味上の主語と‘하다’の主語が一致せず、前者によって「被使役者」である主動子が表され、後者によって「使役者」である拮抗子が表される。このような対応関係から考えると、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’は同一の事態について互いに異なる視点から観察し、それを言語的に表現するものであり、両文法形式は「コインの表と裏」のような関係を成すと言える。

モダリティの観点から見ると、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’はいずれも参与者外的モダリティを表すという共通特徴を持つ。しかしながら、後続可能なモーダルな文法形式の種類に関しては違いを見せる。‘I-게 되다’は参与者外的モダリティの文法形式の後続を許容しないが、‘I-게 하다’は許容する。これは、‘I-게 되다’が主動子の視点から事態を「状況的」なものとして捉えて表現するものであるのに対し、‘I-게 하다’は拮抗子の視点から事態を「行為的」なものとして捉えて表現するという違いに起因する現象であると考えられる。なお、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’はいずれも典型的なムード形式とはかなり異なる意味的および統辞的特徴を持つため、モダリティの程度性は極めて低いと言わざるを得ない。

ムード形式でない‘I-게 되다’がモダリティ的に機能するのは、先行用言の動作的性質、主動子の有情性、事態成立に関する拮抗子側の支配権といった条件が全て揃っている場合に限定される。

拙稿の高地(2020)に続き、本稿でも非ムード形式によるモダリティ的な機能の考察を試みた。これら一連の考察を通じて、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’をひとまずはムード形式から除外すべきだという結論に至ることが出来た。Talmy(1988)は英語の例を示しつつ、モダリティと「使役」をより大きなカテゴリーとして括り、「より大きなモーダル体系(the greater modal system)」と名付けているが、現代朝鮮語の場合はこれを援用すべきではない。力のダイナミックスの観点から見れば、モダリティと「使役」には共通点があり、「使役」と「疑似被動」にも共通点が存在するが、高地(2020)および本稿で検証したとおり、‘I-게 되다’と‘I-게 하다’のモダリティの程度性は極めて低く、またこれらの分析的な形がモーダルな意味を表すのは特定の条件が満たされた場合に限られる。

今後は、現代朝鮮語に存在する分析的な形を対象とした記述をさらに進め、それらをムード形式とそうでないものに分類する作業をひとまずの課題としたい。また、ムード形式間の連鎖現象に対する考察を進め、連鎖が許容される場合とそうでない場合の仕組みについても解明しなければならない。最近、モダリティ研究が一時期に比べ下火になっているようであるが、課題は山積みなのである。

《参考文献》

(日本語で書かれたもの)

- 菅野裕臣(2006), 「朝鮮語の形態論的単位について」, 『韓国語学年報』第2号, 神田外語大学韓国語学会, pp. 159-177.
- 菅野裕臣他(1991), 『コスモス朝和辞典(第2版)』, 白水社.
- 高地朋成(2016), 「現代朝鮮語のモーダルな分析的形について」, 『韓国語学年報』第12号, 神田外語大学韓国語学会, pp. 55-100.
- 高地朋成(2018), 「現代朝鮮語におけるムード形式の連鎖現象に関する雑考: 参与者志向モダリティーの連鎖を中心に」, 『(成澤勝博士古稀祝賀記念論集) 五次元視角からの東アジア…空間・時間・人間…』, 銀河書籍, pp. 1-17.
- 高地朋成(2020), 「使役を表す分析的な形‘I-게 하다’について: モダリティーの観点からの考察」, 『韓国語学年報』第16号, 神田外語大学韓国語学会, pp. 29-70.
- 辻幸夫他(2019), 『認知言語学大辞典』, 朝倉書店.
- 中野弘三他(2015), 『最新英語学・言語学用語辞典』, 開拓社.
- 長友俊一郎(2014), 「束縛的 must の語用論的・認知言語学的特徴づけと言語学習との接点」, 『関西外国語大学紀要 研究論集』第99巻, pp. 1-19.

(朝鮮語で書かれたもの)

- 김서형(2014), 「‘-게 되다’의 의미 기능과 한국어 교육」, 『Journal of Korean Culture』 제 27 호, 한국어문학회 학술포럼, pp. 53-76.
- 김윤신(2017), 「국어 문법 공특에서의 피동에 관한 국어학적 고찰」, 『한글』 제 318 호, 한글학회, pp. 147-168.
- 김윤신(2018), 「‘-게 되다’의 통사와 의미에 대한 연구」, 한국언어학회 학술대회지, 한국언어학회, pp. 96-102.
- 김정남(2009), 「‘-게 되다’의 의미와 분포: 한국어 교육 자료 개발을 위한 기초 연구의 일환으로」, 『한국어 의미학』 제 30 호, 사단법인 한국어의미학회, pp. 59-88.
- 다카치 토모나리(2018), 「‘-는 법이다’와 ‘-기 마련이다’의 양태 정도성」, 『어학연구』 제 54-1 호, 서울대학교 언어교육원, pp. 97-121.
- 이정택(1992), 「용언 ‘되다’와 ‘피동법’」, 『한글』 제 218 호, 한글학회, pp. 89-118.
- 전영철(2008), 「소위 이중피동문에 대하여」, 『언어학』 제 52 호, 사단법인 한국언어학회, pp. 79-101.
- 최규수(2005), 「‘되다’와 ‘지다’의 피동성에 관하여」, 『한글』 제 269 호, 한글학회, pp. 101-134.

(英語で書かれたもの)

- Ilić, T. (2013), “Modality and Causation in Serbian Dative Anticausatives: A Crosslinguistic Perspective”, Ph. D. Dissertation, University of Hawai‘i at Mānoa.
- Talmy, L. (1988), “Force Dynamics in Language and Cognition”, *Cognitive Science Vol. 12*, pp. 49–100.
- Palmer, F. R. (2001), *Mood and Modality (2nd ed.)*, Cambridge University Press.

《言語コーパス》

문화체육관광부/국립국어원(2011), 『21세기 세종계획 최종 성과물(2011년 12월 수정판)』.

【謝辞】

調査の段階で協力を惜しまず、例文の適正についてご助言を下さった韓国人インフォーマントの諸氏に心から感謝申し上げます。そして、拙稿を丹念に読み解いて有益なご指摘を下さった査読者の方に心から感謝致します。

양태의 관점에서 바라본 분석적 형식 ‘I-게 되다’

—‘I-게 하다’와의 비교—

다카치 토모나리

천리대학

이 논문에서는 ‘I-게 되다’가 갖는 기본적인 의미를 [변화]로 보고 특정 조건 하에서 [의사피동(pseudo passiveness)]의 의미를 갖게 됨을 밝혔다. 또한 힘-역학(force-dynamics) 및 양태(modality)의 관점에서 [의사피동]의 ‘I-게 되다’와 [사동]의 ‘I-게 하다’를 비교함으로써 이들의 공통점과 차이점을 기술하였다.

힘-역학의 관점에서 볼 때 ‘I-게 되다’와 ‘I-게 하다’는 마치 “동전의 앞면과 뒷면”을 보는 것과 같다. 이들은 동일한 사태(event)를 대상으로 서로 다른 시점(視點)에서 바라보며 표현하는 문법형식(grammatical forms)이다. ‘I-게 되다’는 사태의 참여자(participant), 즉 주동자(agonist)에 초점을 둔 표현이고, ‘I-게 하다’는 사태의 통솔자(controller), 즉 길항자(antagonist)에 초점을 맞춘 표현이다.

양태의 관점에서 ‘I-게 되다’와 ‘I-게 하다’는 둘 다 참여자외적 양태(participant-external modality)에 해당하는 양태적 의미를 갖는다. 그러나 이들의 양태 정도성(degrees of modality)은 극히 낮으므로 전형적 양태 문법형식과는 의미적으로도 통사적으로도 상당히 다르다.

‘I-게 되다’와 ‘I-게 하다’는 선행 용언의 행위성, 주동자의 우정성(animateness), 길항자의 사태에 대한 지배권 등 조건을 모두 만족시켰을 때에만 한정적으로 양태적 의미를 갖는다.